

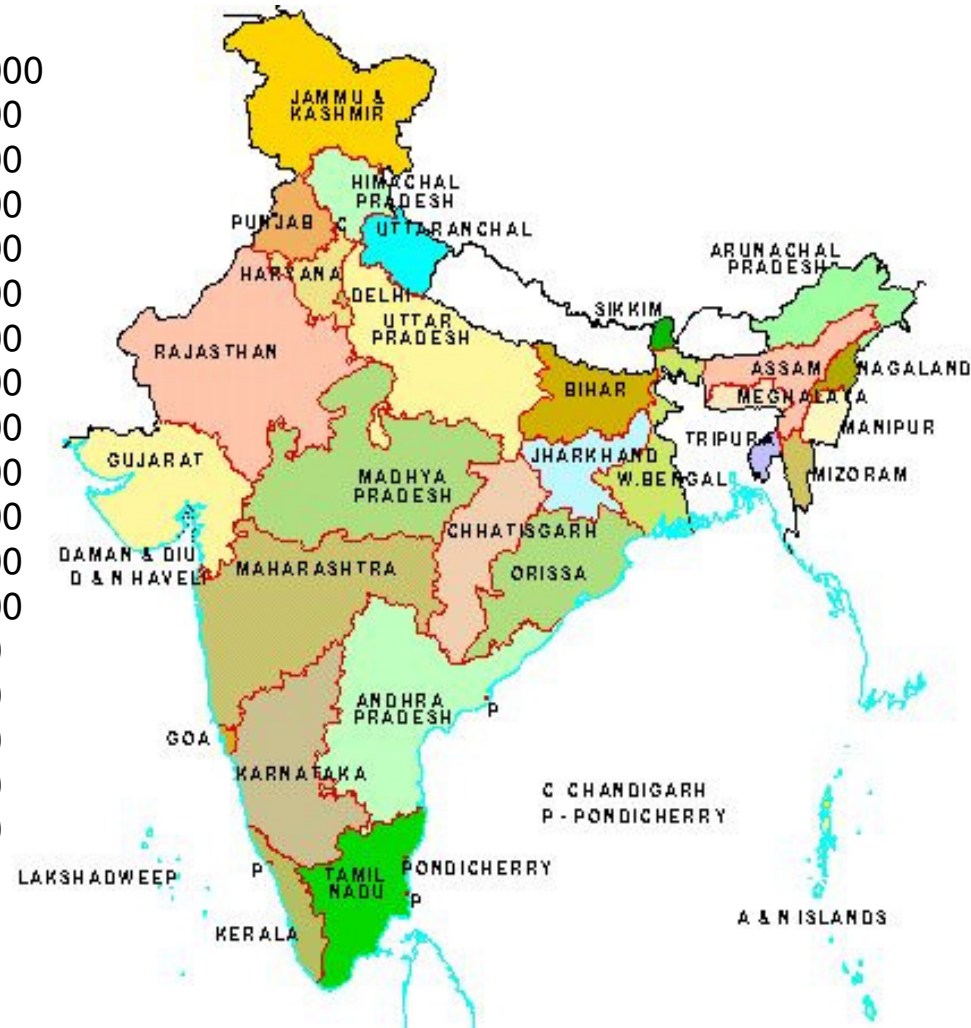
欧米印日のソフト人材育成を 比較して

ナリン C. アドバニ

2008. 6. 20

言語と人口

• ヒンディ語	Hindi	337,000,000
• ベンガル語	Bengali	70,000,000
• テルグ語	Telugu	66,000,000
• マラティー語	Marathi	63,000,000
• タミル語	Tamil	53,000,000
• ウルデウ語	Urdu	43,000,000
• グジュラート語	Gujarati	41,000,000
• カンナダ語	Kannada	33,000,000
• マラヤラム語	Malayalam	30,000,000
• オリヤ語	Oriya	28,000,000
• パンジャビ語	Punjabi	23,000,000
• ボジュプリ語	Bhojpuri	23,000,000
• アッサム語	Assamese	13,000,000
• マイティリ語	Maithili	8,000,000
• シンディ語	Sindhi	2,100,000
• コンカニ語	Konkani	1,700,000
• マニプリ語	Manipuri	1,200,000
• ネパール語	Nepali	1,000,000
• サンスクリット語	Sanskrit	500,000
• カシュミール語	Kashmiri	500,000



インドは若い その1

- IT分野において年間30%成長を維持し続けるには毎年65,000人の大学卒業生が必要
- 自動車、科学、建設、製鉄、エネルギー等の分野においても年間10,000人の大学卒業生が必要
- 2008年には理科系の大学生が600,000人になると見込まれている。

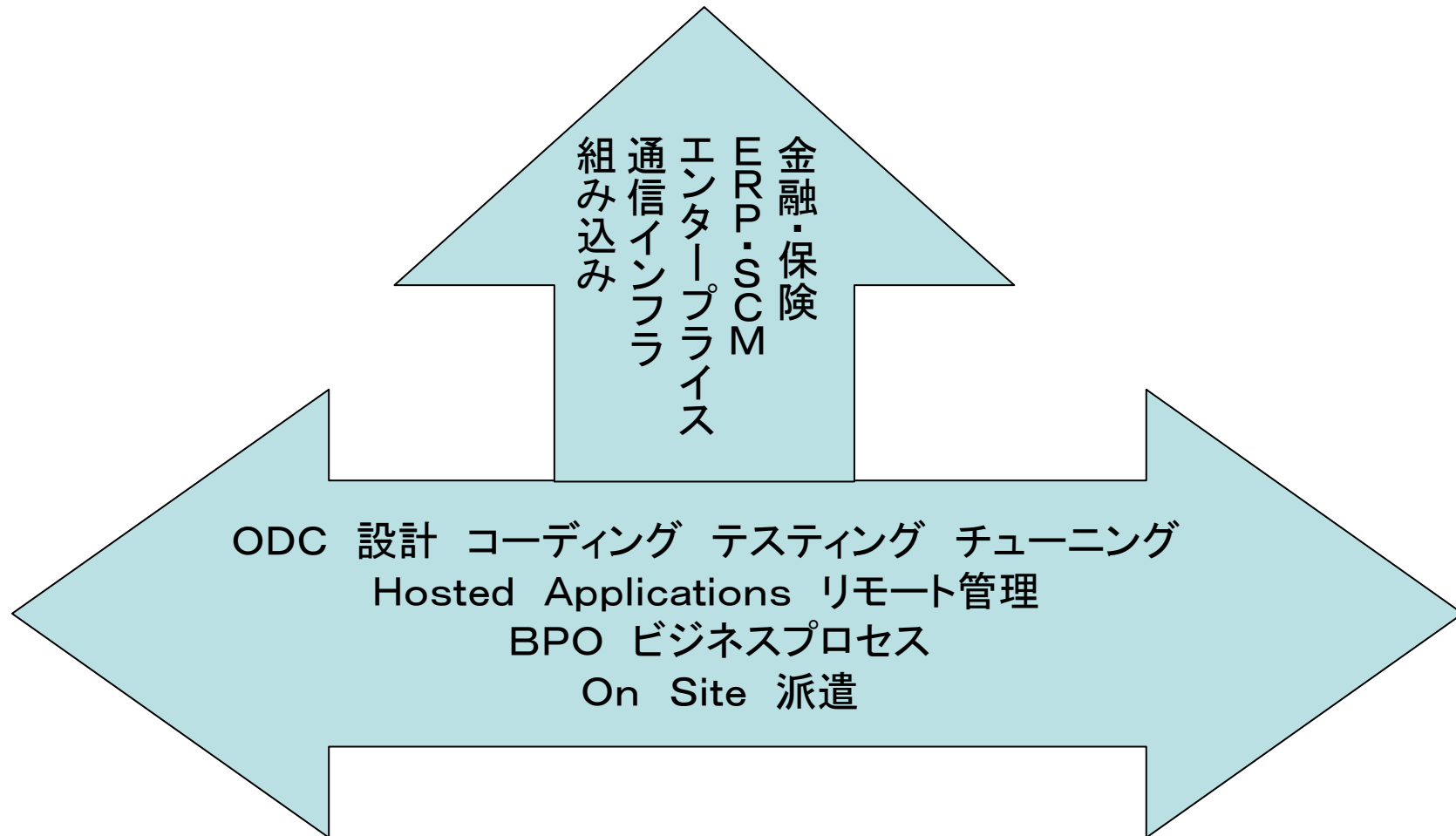
インドは若い その2

- インド10億人の人口の35%が15歳未満。成人になれば、エネルギーを使い、パソコンやテレビを買い、自動車にのる。消費量はどんどん増えていく。
- 2025年には
 - 日本での年齢の midpoint が50歳
 - 西欧での年齢の midpoint が45歳
 - 中国での年齢の midpoint が39歳
 - インドでの年齢の midpoint が30歳

インド IT業界

- 2007年ソフトウェア技術者総数が1,000,000人
- 年間15万人が大学から卒業
- IIT等により教育水準が高い、技術者の13%がマスターズ取得
- 歴史的に軍事、通信、マイコン、組み込みが強い
- 上流言語、複数言語に強いのでC、C++、Java等得意
- プロセス主義(2003年で60社CMM5、世界の75%)
- 英語が標準語
- 国が積極的に支援(テクノロジーパーク、税金免除、補助金等)
- 国にIT省があり、IT大臣がいる
- 知的所有権などを守る政策がある
- NASSCOMやESCのような業界連携団体ががんばっている
- インフラがまだ弱い(電力、道路、空港)
- アウトソーシングが上手だが「研究開発」や「自社技術」はまだ

バーチャル類 と サービス類



インドIT業界年収カーブ

- 平均年収
 - ソフトウェアエンジニア
 - 100万円
 - チームリーダー
 - 200万円
 - プロジェクトリーダー
 - 300万円
 - プロジェクトマネージャ
 - 500万円
 - プログラムマネージャー
 - 700万円
 - ジェネラルマネージャー
 - 1000万円

コミュニケーションの進化

